地理歴史科（歴史総合）学習指導案

神奈川県立生田高等学校
授業担当 教諭　足羽由紀夫

1．授 業 日　　令和８年 11 月 12 日（木）第５校時

2．教　　場　　15R ホームルーム教室

3．教科・科目　地理歴史科・歴史総合

4．学年・ｸﾗｽ　第１学年・15R

5．本時の単元について

（１）単元名

第６章　経済危機と第二次世界大戦

（２）単元の学習目標

①【知識・技能】

世界恐慌、ファシズムの伸張、日本の対外政策などを基に、国際協調体制が動揺した背景や要因について理解する。また、第二次世界大戦の展開とその影響、国際連合の成立、冷戦の始まりとアジア諸国の動向、戦後改革と日本国憲法の制定、朝鮮戦争などを基に、第二次世界大戦後の国際秩序と日本社会の変化について理解する。さらに、歴史に関する諸資料から必要な情報を適切かつ効果的に読み取り、整理・活用する技能を身に付ける。

②【思考力・判断力・表現力】

経済危機の背景や影響、国際秩序や政治体制の変化、第二次世界大戦の推移とその影響などに着目し、日本と諸外国・諸地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりして、各国の世界恐慌への対応や国際協調体制が動揺した要因、戦争の性格と惨禍、戦時下の社会や人々の生活、戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などについて多面的・多角的に考察する。また、諸資料から読み取った情報を根拠として、自らの考えを論理的に説明し、表現する力を身に付ける。

③【主体的に学習に取り組む態度】

世界恐慌から第二次世界大戦、戦後の国際秩序の形成に至る歴史的事象について、単元を貫く問いを意識しながら、各時間の学習課題に粘り強く取り組もうとする。また、各時間の学習を振り返り、これまでに習得した知識や資料から得られた情報を基に、自らの考えを深めたり修正したりしながら、単元全体を通して歴史的事象の背景や相互の関連、社会に与えた影響について主体的に追究しようとする。

（３）単元の評価規準

評価規準		
【A】知識・技能	【B】思考力・判断力・表現力	【C】主体的に学習に取り組む態度
①世界恐慌、ファシズムの伸張、日本の対外政策などを基に、国際協調体制が動揺した背景や要因について理解している。 ②第二次世界大戦の展開、国際連合の成立と冷戦の始まり、アジア諸国の動向、戦後改革と日本国憲法の制定、朝鮮戦争などを基に、第二次世界大戦後の国際秩序と日本社会の変化について理解している。 ③歴史に関する諸資料から必要な情報を適切かつ効果的に読み取り、歴史的事象の理解に活用している。	①経済危機の背景と影響、国際秩序や政治体制の変化などに着目し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりして、各国の世界恐慌への対応の特徴や国際協調体制が動揺した要因について多面的・多角的に考察し、資料を根拠として表現している。 ②第二次世界大戦の推移と戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目し、第二次世界大戦の性格と惨禍、戦時下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などについて多面的・多角的に考察し、資料を根拠として表現している。 ③単元を貫く問いについて、各時間の学習内容を相互に関連付け、歴史的事象の背景・原因・結果や社会に与えた影響を考察し、論理的に説明している。	①世界恐慌から第二次世界大戦、戦後の国際秩序の形成に至る歴史的事象について、単元を貫く問いを意識しながら、各時間の学習課題に粘り強く取り組もうとしている。 ②各時間の学習を振り返り、習得した知識や資料から得られた情報、他者の意見などを踏まえて、自らの考えを深めたり修正したりしながら、単元を貫く問いの解決に向けて主体的に追究しようとしている。

（４）単元の学習指導計画（９時間）　　（●指導に生かす評価　○記録に残す評価）

時間	学習内容	学習の到達目標	評価の計画			評価の方法
			A	B	C	
1	世界恐慌と各国の対応	・世界恐慌と日本への影響ついて考える。 ・世界恐慌がイギリス・アメリカ・ソ連に与えた影響を考える。	●	○		スライドの提出
2	ファシズムの時代	・イタリアやドイツでファシズムが台頭した理由を考える。 ・ドイツとイタリアの対外進出と各国の対応について考える。	●			ワークシートの提出
3本時	満洲事変と軍部の対立	・満洲事変と「満洲国」の成立，日本の孤立化について考える。		○		ワークシートの提出

4	日中戦争と戦時体制	・日中戦争の内容と影響を考える。 ・戦時下の日本社会について考える。	●			ワークシートの提出
5	第二次世界大戦の勃発	・第二次世界大戦のはじまりについて考える。 ・アジア太平洋戦争について考える。	●		○	ワークシートの提出
6	第二次世界大戦の終結	・第二次世界大戦の展開をみる。 ・イタリア・ドイツ・日本の敗北について考える。	●		○	ワークシートの提出
7	国際連合と成立と冷戦	・国際連合の成立と組織の内容について考える。 ・冷戦について考える。	●			ワークシートの提出
8	日本占領と日本国憲法	・ＧＨＱの日本占領方針について。 ・ＧＨＱの政策と日本国憲法の制定について考える。	○	●		ワークシートの提出
9	朝鮮戦争と日本	・朝鮮戦争など冷戦が対日占領政策に与えた影響を考える。 ・日本の独立回復と日米安保条約について考える。	●			ワークシートの提出

（５）単元におけるマスタールーブリックの活用

Ｂ―①　教科等横断の視点で多面的・多角的、論理的に考察する力

本単元の中では日本や様々な国の政治的・外交的つながりが多くみられる。各授業において様々な立場（国別の視点・国民と政府の視点など）からものごとを見ることによって、歴史を学ぶ上で重要な多面的・多角的に考察する力を身に付けさせる。この取り組みによってマスタールーブリックのレベル２の達成に貢献することができる。

6．本時の展開

（1）本時の題材名

満洲事変と軍部の対立

（2）本時の学習到達目標

満洲事変と「満洲国」の成立，日本の孤立化について考える。

（3）本時の学習と指導の流れ　　（●：指導に生かす評価　〇：記録に残す評価）

過程		生徒の学習・活動	指導上の留意点	評価
導入	5分	◎プリント配付 ◎肉弾三勇士の話 ・導入の話から単元と本時の目標を確認する。	日露戦争時代と本時に取り扱う時代の相違点について理解できるように説明する。	
展開	40分	◎本時に取り扱う時代の説明 ・満洲事変から二・二六事件にかけての説明を聞き、その流れや出来事のつながりなどを理解する。 ◎四つの視点から考えるワーク ・４人班で一人１テーマを担当し、教科書等の資料から授業プリントの問いの答えを考え、記入する。 ・答えを班の中で共有し、他からの視点の考え方を理解する。 ◎四つの視点を合わせて考えるワーク ・四つの視点のうち、日本が日中戦争に向かう要因となった視点を、班員と相談しながら重要度に応じてランキングにする。	・班での共有は全体で合わせて一つずつ行い、最低限の理解が必要な部分は説明して補う。 ・ここまでの資料を取り上げながら根拠をもってランキングを作成できるように指示する。	●知・技 ●思・判・表 B―①
まとめ	5分	◎本時のまとめを記入する ・本時の内容を振り返り、本日のテーマと単元の問いの答えを考える。		〇思・判・表 B―①